

【事例報告】

その5

「市民自らで考え、行動して、勢田川をきれいにしていこう」

勢田川とおりゃん瀬を育てる会

宇野弘史郎さん

伊勢市の市街地のど真ん中を流れる全長わずかに6.9キロの都市河川・勢田川。本来は、豊川や清川の水路など、外宮周辺の水辺環境の保全を担っていましたが、都市化の進展に伴う汚濁で、過去10年間に8回も県内63河川のワースト1を記録。汚い川の汚名返上を願って、宇野弘史郎さんら10人ほどのメンバーによる「勢田川とおりゃん瀬を育てる会」の活動が地道に続けられています。

活動は、平成15年に、流域住民と国・県・市の行政が一体となって立ち上げた「勢田川きれいにプロジェクト（略称SKiP）」がきっかけ。ワークショップを経て、上流部の砂の流失を防ぐ土留めと生態系の保全、水質浄化の機能を持った落差工（幅約20メートル、長さ約20メートルの中に3つの異なるこう配をつけたもの）を設置。川の中に水質浄化につながる浄化剤（竹炭、カキ殻、乳酸菌飲料容器）を入れたユニットを設置するとともに、景観や親水性に配慮した飛び石を置いています。

育てる会のメンバーたちは、年に2回、浄化剤の詰め替え作業を行うとともに、河岸の伊勢市立明倫小学校の児童らとともに七夕祭りを盛り上げたりしています。



年2回の浄化剤の取り替え作業



勢田川に配置した飛び石